



試験用サンプル素材
左：旧タイプのGTX-Dに104-Dがついたもの（旧・旧）。
中：GTX-D NCFに同じく104-Dを装着（新・旧）。
右：GTX-D NCFに105-D NCFを装着（新・新のフル装備）。

ルなものだ。
ここでは、デュアル型壁コンセントのGTX-D NCFとペアで組み、従来モデル（これも継続販売との新旧比較をしたい。用意したのは次の3パターンである。いずれも複合コンセントベース（下地主台ベース）のGTX Wallplateに装着したもので、これを壁コンセントに見立てての実験だ。

A：旧タイプのGTX-Dに104-Dがついたもの（旧・旧）。
B：GTX-D NCFに同じく104-Dを装着（新・旧）。
C：GTX-D NCFに105-D NCFを装着（新・新のフル装備）。

試聴はアキユフェーズのCDプレーヤーとプリ・メインを使い、電源をA、B、Cどのパターンで取るか。それこれを試した印象だが、率直なところ従来のAパターンであっても、電源のクオリティは高く、S/Nや音の純度、全域にわたるスピード感、エネルギー描写など申し分がない。

C：GTX-D NCFに105-D NCFを装着（新・新のフル装備）。
となる。AとBでコンセント自体の比較ができ、最終的にはコンセントカバリの比較もできるわけだ。
ただでさえ最上級の音だがグレードを上げていくとやっぱりさらによくなる



試聴は壁コンセントから中継ケーブルを介して接続。デジタルプレーヤーとプリ・メインを同時に差し換えて試聴した

ストも一気に高まって、キャサリン・ジェンキンスの透明で伸びのあるボイカルや管絃奏の分厚い残響感など、空間スケールの大きさに圧倒された。
新録の「ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番」も、より重厚で壮大だ。中〜低音域まで密度バランスがよく、ボトムがぐっつくと沈む感じである。ジャズもそうだが、骨格の太いピアノとベースのボディ感が生々しさを増し、シバルの波面の高さや情報量がダイレクトに伝わった。高域の粒立ち感や光沢も輝かしく、従来の音が何だかくすんで地味に聴こえてしまった。

フル装備のCパターンになると、さらにその上を行く。カバーまでNCF

外部振動や電磁気、静電気からもしつかりとガードされ、最弱音の検知レベルが大きく向上。声楽や主旋律の裏で奏でられるさまざまな楽器音まで、その微細なニュアンスが感じ取れた。パイオリンから放たれる弓のしなり音や、リード楽器の空気音は格別だ。
ピアノの高速プレイも聴きどころだ。反応はさらに速くしなやかで、最強音までリニアそのもの。鍵盤を跳ね回るように、音符が力強く躍動する。あらゆる音のレスポンスが高精度になり、セッショントライプ録音の違いが手に取るように分かって、演奏の緻密さや豊潤さも最高レベルに達している。
やはりNCFは凄い。個々のパーツの能力はもちろんだが、トータルで手当することの重要さを再認識した次第だ。やるならフル装備だろう。

でかつネオタンパーというのは、最後のひと押しというか、Bでやり残されたところが根こそぎ再構築されるように、私流に言えば音楽再生の感性領域に迫るものだ。

新プレートの効果で演奏の緻密さや豊潤さが最高レベルに達した

② 進化形コンセントプレート&コンセントを聴く

フルテック 壁コンセントプレート105-D NCF 壁コンセントGTX-D NCF

待望のNCF処理のコンセントプレート登場

フルテックが電源周りを強化する新アイテムを次々に登場させている。NCFを採用したシリーズで、電源プラグ、IECコネクタなどに続き、い

よいよ待望のコンセントカバー105-D NCFが発売となった。NCFとはナノ・クリスタル・フォーミュラで、ナノ粒子化されたイオン化する特性の鉱物素材だ。帯電防止と振動吸収効果もあり、製品では構造部材として使われている。さらに特殊なシートを組み



壁プレート 105-D NCF ¥19,800



壁コンセント GTX-D NCF ¥22,000